

令和4年度相談支援従事者指導者養成研修会
国立障害者リハビリテーションセンター学院

相談支援従事者指導者養成研修

ケアマネジメント基礎コース

令和4年6月30日（午後）

講義【初任者研修の二一ズ整理票の導入と相談実践について】

長野県 上小圏域基幹相談支援センター
所長 橋詰 正

アセスメントとは (1)

【定義】

本人の夢・希望の実現や課題の解決に向け、
必要な根拠(情報)をおさえ(収集し)、整理・分析する。

【具体的には】

- 例
- ・ 本人の人となり
 - ・ 本人の夢・希望、解決したい課題。
 - ・ それに向けて必要な状況把握
(本人や環境に関する多角的・総合的な情報)
 - ・ 支援者自身の考え、本人像の解釈、支援の方向性
 - ・ そのための手立て

情報を集めるだけじゃないんだ！

どんな情報をとればいいのか？

情報の分析?????

アセスメントとは (2)

(1) 情報の収集

「なんでそんなこときくの？」に答えられる質問ですか？

本人のゴール・解決したい課題に向け必要な情報を得る。

(2) ニーズ整理

ヒトの頭の中では、これらが同時並行的に情報処理(認知・判断)されているよ！

- ・ **援助者（自分）の判断の根拠**を可視化、言語化する。
- ・ 本人の意思、客観的状況、支援者や周囲の判断を分けて整理する。 Ⅰ 基本原則: 本人の言葉や意思・選好からはじまる。

◎前提となる、相談支援の目的と基本的視点は不変

アセスメント票は…

整理・分析の補助をするための可視化ツール
偏ったみかたにならないように「鳥の目」の効果
票の網羅がアセスメントではない！
ツールは多種多様です。道具選びと使いこなし！

インテーク

情報の収集

ニーズ整理

情報の整理・分析

広義のアセスメント

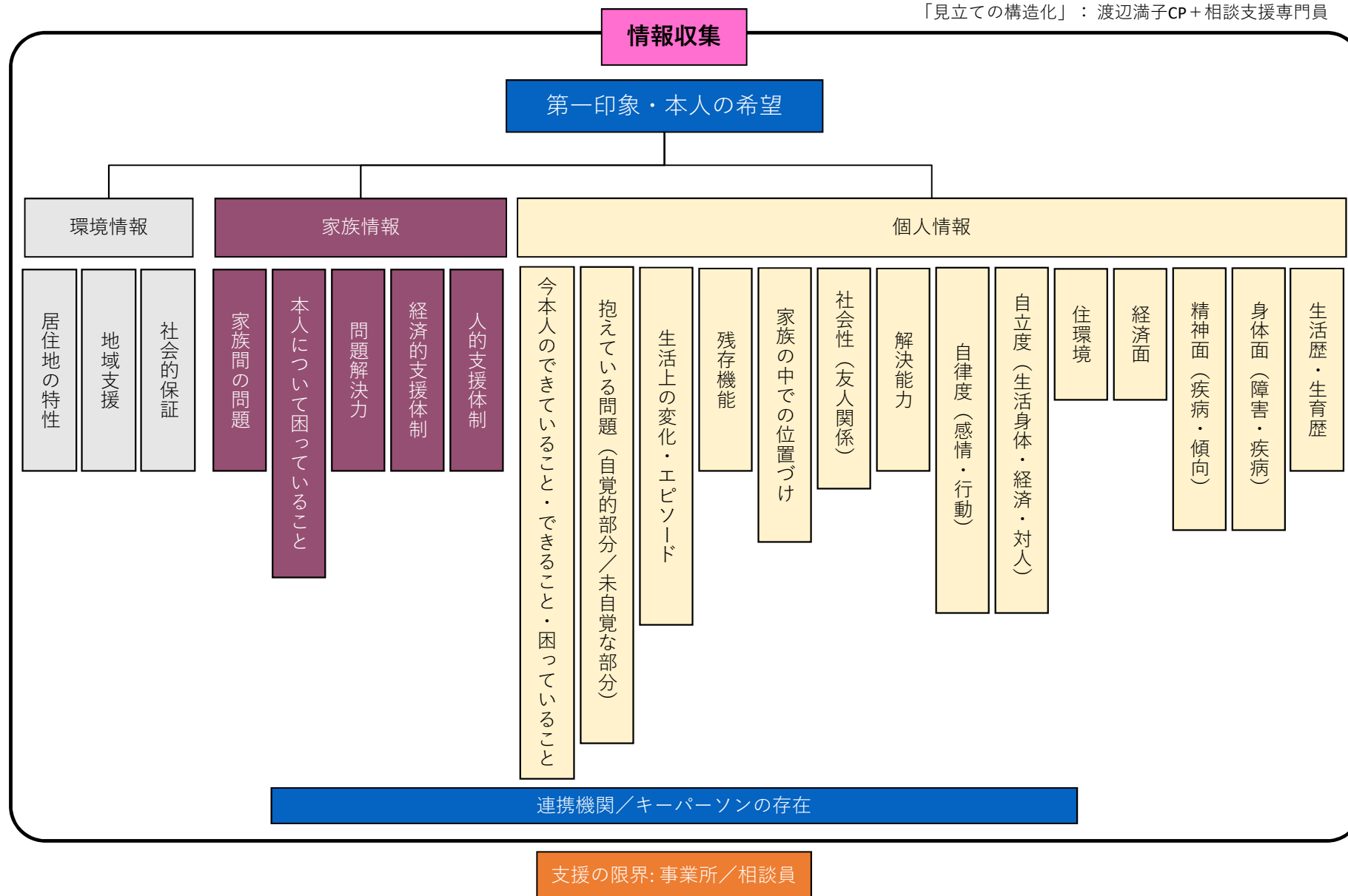
参考：総合的・多角的なアセスメントの枠組み例（厚生労働省ケアガイドライン）

一次アセスメント票		受付No.	作成者氏名	作成日
ふりがな	性別	住所	(〒 -)	
氏名		連絡先		
生年月日	歳			
本人の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと				
ここからはじまる。ここを一緒に作り出す。				
家族の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと				
希望する一日の流れ				
本人				
平日				
休日				
生活状況[普通の1日の流れ]	どのようなリズムをもっている人でしょうか。			
本人				
平日				
休日				
[その他の1日の生活の流れ] ※いくつかの1日の生活があれば、別紙に記入				
本人				
平日				
休日				
本人の概要	【過去(これまで)】も大事です。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように暮らしてきたか。 ・どのような経験をしているか。 ・どう育ち、どのような価値観をもっているか。など <p>♪ひとりひとりの物語があります。 (ライフヒストリー、ライフストーリー) ♪いきなりは聞きにくいですが、本人像の理解にも役立ちます。</p>			
[ジェノグラム]		[エコマップ]		
パツと書けるようにしましょう。 書き方の本はたくさんでいます。		【人間関係】【社会とのつながり】を幅広く捉えます。 ♪本人にとっての「地域」とはなにかをつかみます。		

利用者の状況		状況・意思		支援者の気づき	
項目	現状	本人の希望	本人の選好	記入者	記入者以外 (専門的アセスメントを含む)
1 生活基盤・日常生活に関する領域					
住環境					
経済環境					
2 社会参加に関する領域（教育、就労を含む）					
趣味・旅行・レクリエーション					
当事者団体の活動					
自治会への参加					
その他各種社会的活動					
就労					
3 コミュニケーションや意思決定、社会生活技能に関する領域					
意思表明	客観的事実やデータ	本人の表明	選好の解釈	記入者の解釈	その他の者の解釈
意思決定					
他者からの意思伝達の理解		本人の(推定)意思		他者の解釈が介在	
コミュニケーションツールの使用(電話、FAX、パソコン、タブレット、インターネット)					
対人関係					
屋外移動やその手段(長距離、遠距離)					
金銭管理					
4 日常生活に関する領域					
身辺のこと	意図をもって集めた情報を整理します。 (情報の取捨選択から整理と分析です。) ・多角的な検討や必要な視点が落ちていないかの確認に有効です。 ・網羅すること(埋めること)がいいアセスメントではありません(あまりに聞けていないのも困るが)。				
調理					
食事					
入浴					
清掃・整理整頓					
洗濯					
書類整理・事務手続き					
買い物					
5 健康に関する領域					
体力					
健康状態					
医療機関利用状況					
医療費・健康保険					
障害					
6 家族支援に関する領域 ※必要に応じて加除する。					
父母					
姉					
姪					
対応者所見のまとめ					

参考：総合的・多角的なアセスメントの枠組み例（見立ての構造化）

「見立ての構造化」：渡辺満子CP＋相談支援専門員



インタビュー・アセスメントの留意点

【情報の収集の留意点】 相談面接技術が大きく影響すると心得る！

- ① 表出された言葉や意思、選好の**意味や背景**を探る問いを**多様**に用意する。
 - ② 多様な手段や情報源を活用する。
 - ・ 面接（言語・非言語）
 - ・ 経験の共有（見学、同行、体験等）
 - ・ 周囲からの情報収集など
- **本人の言葉の背景・真意を理解する。**
- **その前提となる本人像を多角的に捉える。**

【復習】

情報保障や意思疎通に支援が必要な利用者がいることに留意する。

ニーズ整理の留意点

① 「見立て」ができるようになるう。

支援者自身が

- a. どのような情報を得て、
- b. どのような解釈をし、
- c. どのような方針をたてるか。

普段自分のアタマの中で、同時並行処理していることを…可視化し、整理する

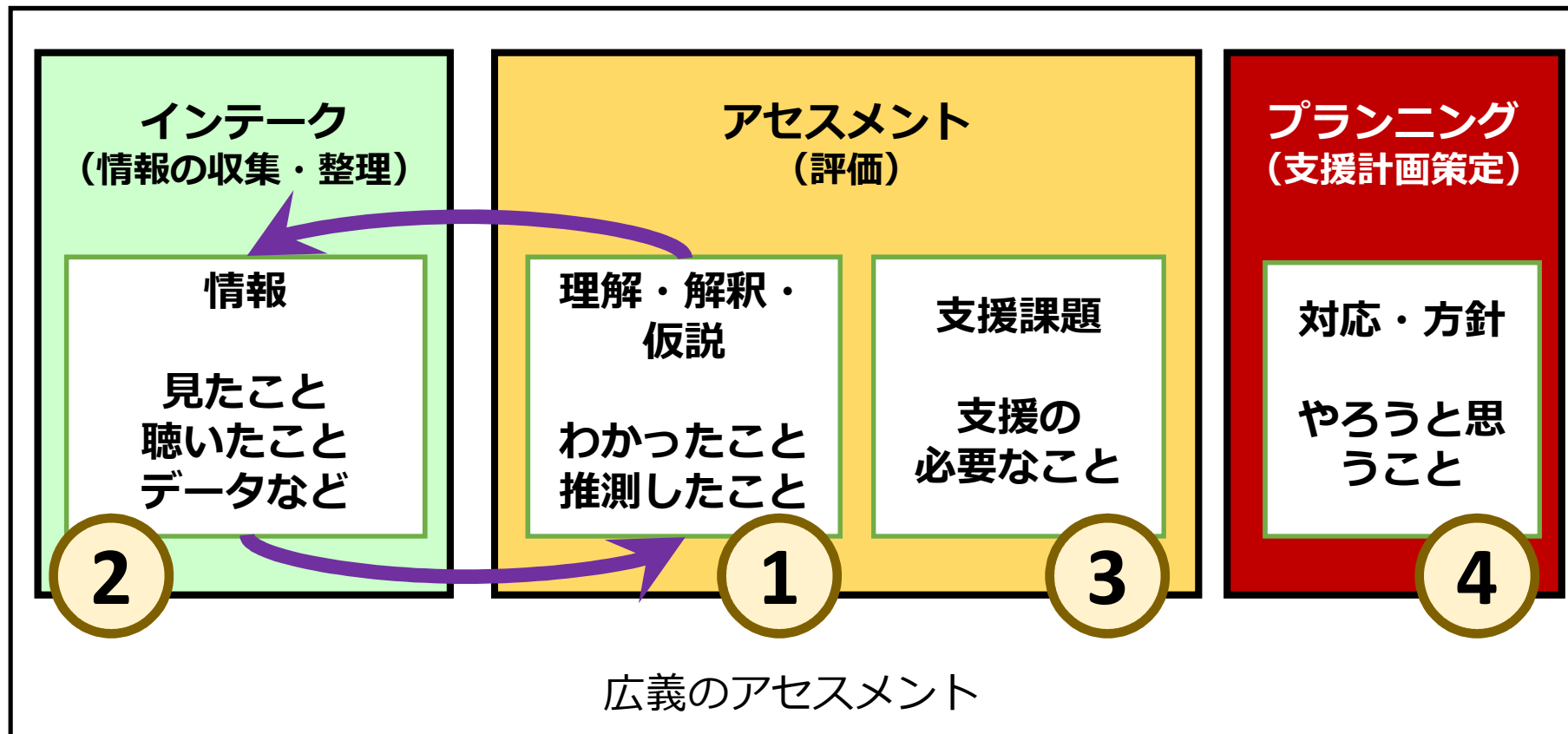
② アタマの中を整理できるようになるう。

- ・ 事実 本人の意思、客観的事実
- ・ 自分の考え 自分の解釈
 自分の支援方針

③ 「手だて（プランニング）」は一旦置いておこう。

本人の言葉・本人の（深めた）理解から始める。
対応から入らない。

ニーズ整理の方法 (1)

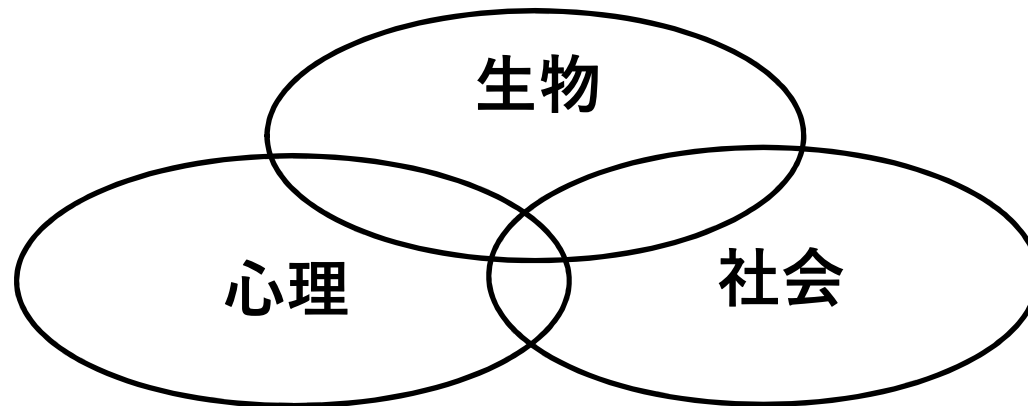


近藤直司

『医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック【第2版】』（明石書店）を改変

生物心理社会モデル (Bio-Psycho-Social Model)

人を多角的・多面的に捉える視点のひとつ



- 生物：生来的気質、発達、障害、疾患など
- 心理：不安、葛藤、希望、自己感、認知、内省性、感情統制、防衛機制など
- 社会：対人関係の特徴や適応、社会関係など

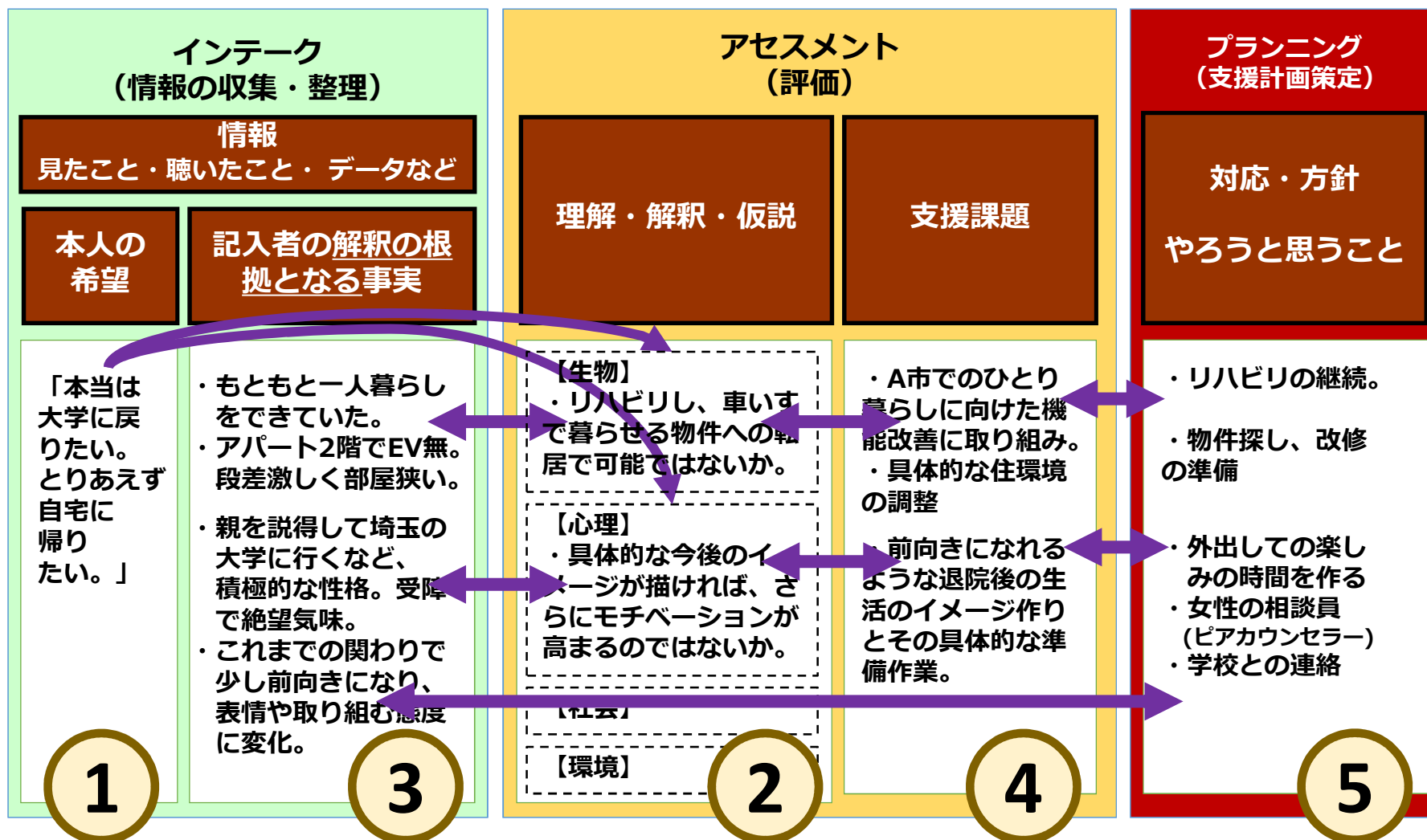
WHOの「健康」の定義

『健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない』

近藤直司

『医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック【第2版】』（明石書店）を改変

ニーズ整理の方法（3）



近藤直司

『医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技術を高めるハンドブック【第2版】』（明石書店）を改変

初任者研修 演習 3 日目

【演習 1】ワークシート 3 ニーズ整理票

インテーク		アセスメント		プランニング		
情報の整理 (見たこと、聴いたこと、データなど：事実)		理解・解釈・仮説 (作成者のとらえたかた、解釈・推測)		理解・解釈・仮説② (専門的アセスメントや他者の解釈・推測)	支援課題 (支援が必要と作成者が思うこと)	対応・方針 (作成者がやろうと思うこと)
本人の表明している 希望・解決したい課題	(作成者の)おさえておきたい情報	本人	環境			
1	3	2			4	5

3 日目の演習

4 日目の演習

今回大づかみに捉えた本人像 (100文字程度で要約する)

初任者研修 3 日目の獲得目標

インテーク

情報収集と整理



アセスメント

理解・解釈・仮説



プランニング

対応・方針の策定

理解しにくい

主語→3人称

「本人がこう言った」
「母親がこう言った」
「主治医がこう言った」 など

主語→1人称

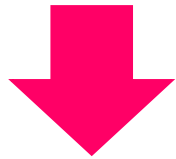
「私はこう理解している」
「私はこう捉えている」
「私はこう推測している」 など

そこから何が言えるのか？

どのような支援課題があるのかを言語化することがアセスメントの一部となる

アセスメントの定義と基本的な枠組み

対人支援におけるアセスメントは「一つ一つの情報を、自分なりに解釈し、それらを組み合わせて、生じている問題の成り立ちをまとめ上げ、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな援助を必要としているのかを明らかにすること。



そのためには...

- ①まずは言語化してみる
 - ②本人の気質や障害特性、・発達や疾患、心理面の不安や葛藤・認知・防衛、対人関係を意識する
 - ③言っていることを示した反応に着目する
- ※心理面のアセスメントが不可欠
- ④本人の無意識に目を向ける（抵抗感とか自己防衛とか）
 - ⑤ストーリーを描く
 - ⑥ストレングスにも目を向ける
 - ⑦生活場面に密着した情報の多い場面でアセスメントする

初任者研修で大切な アセスメントの可視化ツールの導入

- 標準化カリキュラムの意図
(質の向上に向けた研修カリキュラムの変更の経過の理解)
- 都道府県ツールとの比較・共有化
(アセスメントからニーズ整理までの思考の視覚化により、真のニーズや見立ての仮設の根拠を示す研修ツールとなっているかの自己点検をお願いします！)

※発表する目的とアセスメント力を養う目的の両方がある (演習)

本日は、初任3日目の演習講師と受講生の両面を経験頂きました。
振り返りは、地域に戻っての実習の体験にもつながる部分かと思います。

- 研修全体の構造と流れの再確認
(役割分担型のその日のコマの企画の張り合わせではない)
- 最終的にねらう相談支援の質の向上に向けた**研修の入口に位置付ける**
(構造化された研修システム：初任⇒現任⇒主任への流れの中で、最初に受講するのが初任者研修である。)

ケースレポート・ケース検討 (実践モデルを業務にする)

人の材が育つチームを作るための研修のトレーニングのため
の技術の説明の取り入れです。初任者・担当が、これでも現場でのトレーニングの準備です。

自分できちんと話そうとすることで、本格的なディ
スミッションやスーパーバイズが出来るステージが
整得られていくわけです。

ケースレポートの力を身に着けられる職場・地域に
なることを目指した本日の演習でした。